Ⅳ「心のケア」

①仮設住宅での童謡・歌謡曲合唱

【当時のレポート】

第１回３月４日（日）岩手県千厩（せんまや）の気仙沼仮設住宅（１３１世帯）

物資送付頂いた支援者の皆様
宮城県大崎市の現地ボランティア、Ｓさんの自宅へ、支援物資送付、有難うございました。
３月４日（日）岩手県千厩（せんまや）の「気仙沼被災者仮設住宅」（131 世帯、202 人）に、首都圏から９人、車３台分乗、で行き、頂いた支援物資を軽トラックなどで運んできた澤口さんとその仲間と合流、以下配布しましたので、お礼と簡単な報告をします。

午後２時　集会場で、中高年約 40 人の被災者の方々とともに、１時間半、藤山一郎、美空ひばり、千昌夫らの歌謡曲や童謡など「懐かしのメロディ」14 曲を、ヴァイオリン２人、チェロ、キーボードの伴奏に、「即席合唱団」４人の男８人で盛り上げ、会場は大合唱。飛び入りの踊り子オバサンも登場、会場は大きな笑いと歌声に包まれました。
さらに、中盤で、紅一点Ｏさんの「谷川俊太郎―生きる」の詩の朗読で、引き締まり、１時間半、もあっという間。終了後、参加者からは次々と、「えかった」と握手を求められ、大成功。
午後３時半　帰り際の入り口付近で、78 才女性自治会長の指示で、支援物資を配布開始。
１月に行った宮城県登米市の「南三陸被災者仮設」では、何度も配布されていた「お米」も、ここでは、初めて、と嬉しがられ、うずたかく積まれたトイレットペーパーも、どんどん山が低く

なって行きました。最後には、一部「食器」を除き、ほぼ完売。
結局、全員に公平に配布、が難しい量や多様な品種でしたが、「合唱参加者のみ配布」というルール、で配布していて、ほぼ合唱参加者は、全員取り合いもなく、満足げでした。
とりあえず、お礼とご報告まで。

３１１　有志　　齋藤　大介

ＰＳ－今回は、初めてずくめ。合唱伴奏、始め、「気仙沼」のホテル観洋泊や先月末、やっとオープンにこぎつけた「南三陸町さんさん商店街（コンテナ３０店）」での買い物、10 月営業再開「女川人気店」での昼食、ＦＭラジオ石巻での石巻市民交響楽団足立団長インタビュー「飛び入り参加」（16 日放送）など盛り沢山でした。

第２回　５月20日（日）　福島県福島市の北幹線第１仮設住宅（１７５世帯）

午前５時、支援物資満載、チェロも積んで、八王子から来たＫさんを乗せ、２泊３日の旅、いざ出発！千葉、茨城の２人も、日立市出発。
午前９時。新幹線で来たＨさんを福島駅で、現地ボランティア美歌さんが友人３人同乗の車でキャッチし、福島市内の仮設住宅で、我々と合流。ここは、福島北警察署隣の市街地にある、１７５世帯。自治会長「浪江町からの原発避難者７割、津波被災者３割で温度差がある。」

加えて、「隣に原発４町のひとつ、双葉町からの避難者の仮設があり、同じ浜通りの原発避難者といっても、思いは、（浪江は東電と無縁の一方的被害者。原発関係者、東電の町４町は加害者、と）複雑だ。」

午前 10 時。童謡、演歌の大合唱始まる。ヴァイオリン２人、キーボード、そして私のチェロが伴奏。「川の流れに」「星影のワルツ」「誰が故郷を思わざる」・・・・。生カラオケ、で爆笑、苦笑、涙の 1 時間半でした。終了後、多くの方々から寄せられた義援金で購入した生活必需品や、カード付きの手作りの品、を「手土産」として配布。喜ばれました。

午後 2 時。東北自動車道で郡山市内へ戻り、アマオケコンサートへ。石巻演奏会で、ボランティア参加頂いた元新日本フィル首席ヴィオラニスト「東義直」さん、と、プロヴァイオリニストの奥様「手島志保」さんとの絶妙なかけあい。首都圏から行ったヴァイオリン２人とも、「泣けるほど美しかった」、モーツアルトに感激してました！

夕飯は、猪苗代湖手前の４９号線、中山峠の名店「鞍手茶屋」。首都圏と福島ボランティアの会話も弾み、だいぶ馴染む。「麦とろ飯」にするか、「けんちんうどん」にするか、迷い、私はセット注文。馴染みの女将からの漬物盛り合わせ、差し入れもあり、全員満腹～。
午後８時、福島市に近い「土湯温泉」。

311 以降、地震で一部建物に亀裂、崩落などで、大型旅館、ホテル、廃業、休業相次ぐ。

また、放射能の影響もあり、他県からの観光客激減。で、宿は、昨秋、２トントラックに布団満載で宮城県亘理への搬送帰りに泊まった「ニュー扇屋」。若女将が大学の後輩です。
到着すると、目の前に、ビール５本、大きな握り飯５個、漬物、煮物がど～ん。朝食付きのはずが、またまたサービス。すでに満腹、とは言えず、11 時半までかかって、頂きました。

第３回　５月２１日（月）、宮城県石巻市の新栄団地仮設住宅（４１世帯）

翌朝は太陽用メガネ持参し、待望の「金環日食」見物、のはずが、旅館最上階から見えるは、曇り空のみ。若女将とともにテレビで鑑賞しました。金環落胆後、町ごと壊滅した女川へ。屋上を超えるほどの 30 メートル級の津波を被ったあちこちの大きなビル群、冬まではあったものがほとんど解体され、一面平ら。以前の町の面影は完全に消されました。そして、訪問した高台の「地域医療センター」の駐車場には、新たに「慰霊碑」。この高台なら安全、と避難してきた市民が、ラジオを聞きながら、前の海を見下ろしていたら、後ろから津波に襲われ、車ごと、20 メートル近く下へ落とされた場所。ここにいる、歯医者さんと元ライブハウス店主で、今は駐車場係さんにお願いし、７月予定のツアーで、語り部をしてもらう確約を頂きました。共に、自宅兼店舗は完全に流出、跡形なし、の方々です。

午後３時半から、石巻市内の４１世帯の仮設住宅で、前日同様の合唱。
小規模仮設で自治会も作れず（自治会は５０世帯以上）、かつ平日で参加者は 10 人程度でしたが、その分、密度も濃く、歌いながらの、涙と笑顔が真近。馴染みのない、昭和の歌ばかり、でも、ヴァイオリン触りたくて最後まで参加した小学４年生君、もいました。
また、首都圏から一緒に行った、バンド以外の方が、「歌唱指導」「手土産セット・手渡し作業」で貴重な戦力、と再認識されました。

仮設合唱、終了後、「津波で、店の売り物の魚が全部泳いで逃げた」という魚屋「魚長」へ。石巻市民オケ、ヴァイオリスト！の元気な女将と息子、が頑張っています。周囲の商店や納入先の料亭などの多くは、いまだ、休業か廃業。新鮮なお魚、買わせて頂きました。
午後８時から、下記「ファミリーコンサート」協力の件を石巻市民オケ、団長夫妻らと打ち合わせ後、宿近くの居酒屋「ごくう」で乾杯！ だいぶ疲れがたまり、ホテルで、即ベット。

５月22日（火）石巻―唐桑半島　被災地巡り

まず、石巻市内で、最も津波被害の大きいかった南浜地区へ。ガレキは撤去され、平坦な荒野、のまま。途中、の「石巻市立大川小学校」へ立ち寄り。３階まで津波で破壊。北上川沿い、で、あの大川小の先、です。

さらに進み、道路をそれ、雄勝町分浜で、浜に降りると、基礎解体工事現場で働く現地の人に出会い、聞く。曰く「ここは４０世帯の集落、１軒残し、全壊。お寺の本堂までも津波。でも、死者は、一人で皆逃げた。

で、復興、と言っても、「住んではいけない地域」とされ、もうこの浜に戻れない。それでも７メートルの防潮堤建設する、という。税金無駄遣いだ。高台から降りて、漁業再開？市は何考えてんだ！が、みんなの気持ち。」と。

建設業者などの長期滞在で、石巻、気仙沼、南三陸町など、どこも宿は満杯。７月初旬と中旬のツアーの宿泊場所探しで、気仙沼の先、唐桑半島の砂子浜の民宿「なぎさ」へ。でも、やっぱり、各２５人を泊めるのは無理、と玄関払い、のはずなのに、「でも、遠くから来たんだ。お茶でも」と誘われ、コタツ（いまだ）で、コーヒー、お茶、漬物、お菓子、頂き、長話。３１１以前と同じ感覚での、客からの問い合わせに心痛め、婉曲にお断りしている、と。「酌婦手配は？」「食事の細かなメニューは？」。悪意なき、無知の罪。

「（自分も含め）被災した人たちの中で、どんちゃん騒ぎ、ですか？」

「船も流され、港も壊れ、漁業も再開メドもないので、よそでとれた、外で買う高い魚介類、のメニュー、なんです。」一泊２食６５００円。いつか、泊まりに来るぞ！

でも、ここでの寄り道で、岩手県陸前高田へは行けず、一関インターから、帰京。

皆さん深夜１時すぎ、の帰宅になりましたが、２泊３日の密度濃い旅。
全員達成感で疲れも吹っ飛んでました。

Ⅱ　支援物資・支援金報告と要請

宮城、福島のＳさん、美歌さんへ、多くの方から支援物資をお送り頂いています。
主に食料品（レトルト、缶詰、菓子、など）や、石鹸、歯磨きセット、トイレットペーパーなど。
ただ、各々、月に１～２回の日曜に、仮設住宅での支援物資配布をしている中では、量的にはまだ不足です。また、この３ヶ月間で、支援金も、おかげさまで大勢の方々から、**３２９，３９０円**も頂きました。（年末の「お米募金」18 万も加えると、約 50 万、にもなります。）
中身は、個人からの募金や肉親の葬儀での余剰金９万に加え、市民まつりでの不用品バザー売上、チャリティ演奏会入場料、など、「３１１有志」は各自が「主役」、各様の持ち場、やり方で、各自のアイディアの成果。本当にありがとうございます。この支援金の使い道は、宮城。福島の窓口ボランティアへの以下２通り。残金は、４９，１９０円です。

①　現金支援

美歌さんとＳさんへ、各８万円（Ｈさんからの分含む）お渡ししました。
現場ニーズを最も的確につかめる現地ボランティアのそれぞれの判断で、都度、必要な生活必需品を現地で買って配布頂いています。ちなみに、今回の仮設訪問で、美歌さんは、配布用に、ケチャップ、焼肉のタレ、漬物、などを購入していました。

①　支援物資購入

町田市の社会福祉法人「共働学舎」で生産販売しているトイレットペーパーを各々、320 個、約２万強で購入、Ｓさん、美歌さんの自宅へ送付しています。

第４回　９月１５日（土）　相馬市の北飯淵仮設住宅

マイカーにコントラバスやチェロなど楽器や支援物資を積んで、各地から早朝出発。新幹線福島駅でも首都圏メンバー2 人をキャッチ。相馬市の相馬駅近くの「北飯淵仮設住宅」の集会場へ。午後１時半より、約 40 名の被災者の皆さんと、配布した歌詞カードで、20 曲近くの童謡や歌謡曲を合唱。

合唱風景　福島県相馬市「北飯淵応急仮設住宅」集会所にて

終了後、全員に支援物資を配布。控えめな歌声。シャイな感じ。でも、終わって、何人かの方が寄ってきて、お礼の言葉や現在の状況を語る。「（ストレスが）溜まっている」。

４時より、ＮＨＫＥテレ特集で放送された「21 人の輪」で紹介された「百子ちゃん」の両親のレストランで夕食。メンバーの大半は、昼抜きがほとんどで、一気に食する。
夜９時、登米市旅館「三浦屋」到着。

第５回　９月１６日（日）　石巻市の「みなと荘」

朝８時出発。10 時より石巻市総合福祉会館「みなと荘」で、毎月のイベントのひとつとして、我々や女川の合唱リーダー、健康協議会のボランティアなどのイベントと一緒に「合唱伴奏」。被災者は 30 名程度に、我々以外のボランティアなど含め 50 名近く。ここでは、合唱は数曲にして、聴かせる演奏も。

宮城県石巻市総合福祉会館「みなと荘」２階にて

さらに、合間の休憩時間もあり、ゆったり和室でお茶菓子で、各テーブルごとに被災者と歓談。「飛んでる」９０歳のお爺さん、我々の女性メンバーたちに囲まれ、大満足。タンゴが流れ、得意の社交ダンスで踊りだし、会場は笑いに包まれる。私の話した数人の女性は、全員、自宅が津波で全壊。ご主人や近所の知り合いを亡くされ、また地盤沈下で自宅へ戻ることも絶望的、住宅ローンだけ残って、あと１５年、毎月９万払い続ける、「将来、真っ暗」と。また、「避難所で大勢の時は良かったが、仮設住宅に移ってから、やることもなく、会う人もなく、とボケが進行する老人が目立つ」とも。真向かいの避難所だった湊小学校をバックに集合写真を撮った後、すぐにコンビニで握り飯、車中で食べながら女川へ移動。

「みなと荘」玄関前　石巻市立湊第１小学校を背景に

両建物とも一階の天井まで浸水。近くの商店街は、全・半壊で再開は未だ困難な状況

第６回　女川の多目的運動場仮設住宅

１時半より、女川町「多目的運動場仮設住宅」で、約 40 名集め合唱開始。これまでで一番大きな声にびっくり。ここの仮設は、ほかのプレハブと違い、３階建てでベランダもあり、集会場も

三角の大きな屋根に大きな明かり採りで室内も明るく、響きも良い木造。やはり、気分が違う。ここでも 20 曲近くの合唱。時折、こみ上げ、涙される方々も。

宮城県牡鹿郡女川町「多目的運動場応急仮設住宅」集会所にて

リクエストで民謡を歌いながらの踊りも飛び出し、爆笑の渦で終了。石巻、女川両方の伴奏に加わって頂いた、石巻市民交響楽団団長夫妻や被災団員と歓談。

４時すぎ、南三陸町まで足を伸ばし、「さんさん商店街」で買いもの後、福島県土湯温泉へ向かう。９時半、「ニュー扇屋」チェックイン。

９月 17 日（月）　タンゴ演奏　土湯温泉「ニュー扇屋」

朝食後、８時より玄関ロビーで、タンゴ演奏。旅館の老社長夫妻の趣味がタンゴダンス。泊まり客２０人近くや従業員も聞き入り、最後に、社長のスペイン語の歌も聴けて、やんやの喝采。泊り客には、我々の「被災者支援目的」や「演奏経緯」も社長から話しがあり、支援の足しに、と感激した泊り客や女将から「おひねり」まで。

また、支援物資が１３０００円分買えます。

タンゴ歌唱伴奏風景　福島県土湯温泉「ニュー扇屋」玄関ロビーにて

各人が車で持ち寄り、配布し切れなかった支援物資を集約。運転席以外すべて段ボール山積みにして、猪苗代経由で帰還。私は午後７時着。息子たちのリレーで玄関へ運ぶ。

なお、私へ支援カンパ頂いた 20 万ほどの残金の半分を使って、各種食品（カレールー、乾麺などなど）やＡ４拡大の風景や花の写真に使わせて頂きました。

手土産品

11月17日（土）　いわきの被災海岸へ

今回は、本番は翌１８日のみ。そこで、前日の行動は、２組に分かれる。私を除く伴奏者５人と、応援スタッフ２人は、茨城県日立市のメンバー宅に、全員宿泊。一方、私と応援スタッフ２人は、別行動。**午前10時**―支援物資満載のマイカーで出発。都内で２人を乗せ、常磐道へ。

午後２時半―福島県いわき市**「塩屋崎灯台」**へ。大型観光バスも来て、風雨が激しい中、美空ひばりの「みだれ髪」の歌声の流れる記念碑の前で、観光客が記念撮影。記念碑は、津波被害を免れたが、その脇下の公衆トイレや海岸は、破壊され、重機が土曜にもかかわらず、動いていた。記念碑前の大きな土産物店では、名物店主が、震災直後の近くの集落や学校などの津波被害の写真の前で、当時の様子を熱心に長時間説明していた。「あれじゃ、買物する時間がない」と心配する応援スタッフ。商売抜きで、それだけ想いが強く、深いのだろう。

店主が説明していた灯台近くの集落は、福島県最大の津波被害地区とのこと。

160世帯中、流されなかったのはわずか３世帯。１500人の人口で、死者・行方不明者150人以上。海岸線の監視塔も、全て埋没したという。見渡す限りの荒野に、家の土台のあちらこちらに献花が点在。そのひとつに黙祷した。

午後５時半―磐越自動車道で、猪苗代インターまで移動、馴染みの中山峠**「鞍手茶屋」**で、名物「けんちんうどん」や「餅」などで夕食。外は台風並み風雨。

馴染みの女将「仮設暮らしの馴染み客が、半年前までは知り合いを連れて、元気に食べに来てくれていたのに、９月に来たら、声もかけられない、うつ状態で、気の毒でした。この方だけでなく、将来が見えず、事態は悪化してますね。」

午後８時半―土湯温泉「ニュー扇屋」へ。ここも、既に４回目。すっかり馴染みになり、９月連休の時同様、シーズン土日の「朝食のみ」は宿には申し訳ない、と思い入館。が、前回タンゴを唄った社長や若女将から歓待頂き、ビール・チューハイ・手作りプリン・宿製温泉玉子、お新香の差し入れ。更に恐縮する。

第７回　11 月１８日（日）　山元町の「中山熊野堂仮設住宅」

午前７時―朝食も無理言って一時間早める。宿は、かきいれ時、満席、だった。

朝の土湯温泉の周囲は紅葉に彩られ、観光目的ではない我々も、暫し見とれる。

午前９時―東北自動車道の福島西インターから国見インターを経て、阿武隈山系を横切り、狭い山道を通って、宮城県山元町の「中山熊野堂応急仮設住宅」へ。130 世帯、と比較的大きな規模。ゴルフ場の横。でも、仮設入口の案内板もなく、迷った。既に朝５時出発してきた「日立」組も到着。

午前 10 時―開始５分前になっても、誰も来ない。まだまだ瓦礫の片付けなどあり、ボランティアと共に若い仮設住民は、不在、と言う。すると、自治会長さんが、見かねて戸別訪問。ようやく 30 人弱となり、10 分遅れでスタート。

★山元町―福島県新地町と隣接する宮城県南部の震災前人口１７，０００人の町。亘理郡で、「亘理いちご」の産地。震災津波（約 12m）による死者・行方不明者６９５人。海岸沿いに常磐線の駅を囲む主要な町の商店街や住宅、そしていちごハウスなどがあったが、山間部を除き壊滅。30 名近くの受講生が犠牲になった「山元自動車学校」があった。なお、我々「３１１　有志」が昨年半年間の支援活動を行ったのは、山元町と隣接する亘理町の「吉田公民館」前の広場で、亘理・山元両方の被災者約 600 人に毎月支援物資を配布し続けていた縁がある。

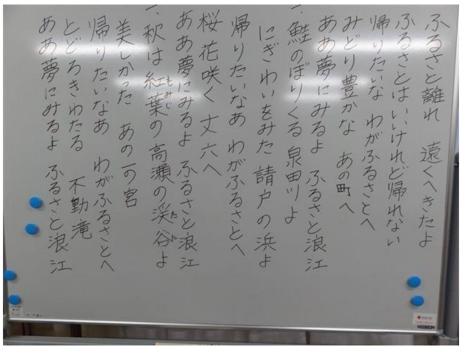
童謡や歌謡曲を 10 曲近く歌ったところで、今回初の試み。歌謡曲「青い山脈」の歌に合せる簡易体操。これで、硬さもとれ、さらに「笑点」や「漫画」などの主題歌の「曲名当てクイズ」で、大爆笑。後半は、声も大きくなり、さらに５曲とアンコール合唱。皆リラックスし、結局、予定を 30 分もオーバー。帰り際に、持参した支援物資の食品・石鹸や風物写真など配布。また、段ボール箱 2 箱分の婦人用衣服も、ほぼ空。集会所用には、Ａ３のスカイツリーや花の額入り写真を贈呈。参加者の一部からお礼を言われ、無事終了。

第８回　　本宮市の「石神第１仮設住宅」

午後２時ー東北自動車道白石インターから二本松インターを経由、本宮市の運動場横にある「石神第１応急仮設住宅」に到着。直ちに談話室へ。２時半スタート。こちらは、40 世帯と小規模仮設なのに、いや、だから結束が固いのか、30 人近くが集まって頂いた。ここでは、珍しく男性が目立つ。でも、皆さん、遠慮がちで、最初は、前列空席、後ろに固まる。

★浪江町ー震災前人口約２１，０００人。山合いには、日本テレビ「鉄腕ＤＡＳＨ村」があるところです。震災の津波（約1６m）による死者・行方不明者は、184 人。一方、原発の放射能汚染警戒区域での全町民避難地域は、47 都道府県ずべてに及び、福島県内には、７割弱の１４，５５４人。県内でも５２市町村に分散。
放射能除染はまだこれから、で、10 年先に帰ることが出来るかどうか、も不明。
我々は、５月に福島市内にある「北幹線仮設住宅」で浪江町民の皆さんと合唱した。

さて、曲が始まると、徐々にリラックス。爆笑もたびたび。簡易体操もクイズも大ウケ。それは、午前中と同じ。でも、最後に、「ふるさと浪江」という故郷を追われた町民の想いをのせた新作の民謡を歌いたい、という突然のリクエスト。初見の楽譜でトライ。参加者は、白板にある歌詞を見ながら、の斉唱。作詞・作曲とも、浪江の人。多くの参加者、そして伴奏者が泣いた。泣いて歌い、泣いて伴奏した。私の挨拶も言葉が続かなかった。



終わってから、「コーヒーでも」と引き止められ、懇談。非売品のＣＤや紹介記事の載っている新聞コピーなどを頂き、「この民謡には踊りがつくんです。９名の踊り隊が、あちこちで披露していますが、多くの地域にいる浪江町民全員に聞かせ、歌ってもらいたいので、少しでも手伝っていただければ有難い。」

午後４時半ー別れ際に、自治会役員や「踊り隊」会長などと、記念撮影。
今年最後の支援活動の締めくくり、で、思わぬ来年への宿題と展望が見えた。

②被災者へ向けた演奏会

宮城県最古のアマオケ「石巻市民交響楽団」から、弦楽器と合唱（ソプラノ・テノール・バス）が足りないと、年末に応援の要請。難曲である「チャイコフスキー交響曲第５番」の演奏経験者、と、フォーレ「レクイエム」合唱経験者、というバーの高さ、しかも募集期間も短かったのに、首都圏から、弦楽器１７名（うち２人は、トッププロ）、合唱１３名（うち３人は団長）観客６人がボランティア参加。それぞれ、２月、都内や埼玉で集合練習し、前日練習に参加すべく、新幹線やマイカーで分乗。そして、当日、石巻専修大学体育館は、１０００人の観客でほぼ満席。２時間の演奏が終わり、首都圏からの参加者は、「過去に体験したことにないレクイエム」に感動、涙。祈り。「癒されたのは、我々だった。」
そして、これを機に、同年６月ファミリーコンサート、２０１３年６月「カンタータ大いなる故郷石巻」演奏会（首都圏から３０人規模の弦楽器、合唱参加）２０１４年３月「犠牲者追悼演奏会」、６月ファミリーコンサートに首都圏から参加。現在も「石巻市民交響楽団」と「３１１　有志」の繋がりは継続中である。

≪当時のレポート≫

2月１９日（日）石巻で練習見学

宮城県への訪問は、３月 25 日（日）石巻専修大学開催される「東日本大震災犠牲者追悼特別演奏会」の石巻市民有志合唱団と、石巻市民交響楽団の 19 日（日）練習を見学、参加しました。

①合唱―石巻専修大学で、100 人が練習を見学。応募 180 人中、男女比１：４、そして、全体の半数がアルト、とバランスが悪く、急きょ、首都圏などからの応援（フォーレ「レクイエム」合唱経験者）の要望を指揮者などから頂き、早速、「合唱急募チラシ」で対応することとしました。合唱をされるご友人がいらしたら、声かけ、お願いします。

②オーケストラ―石巻中央公民館での 30 人の練習にヴァイオリン、ビオラ、チェロで参加。オーボエ、ファゴットなど無く、また弦楽器のボーイング（弓運び）も模索中。我々首都圏からは、結局 14 名参加に加え、新潟県長岡からも 10 名、や、仙台のプロやアマのエキストラも参加するので、総勢 60 人程度にはなる模様。

③ソロ演奏―首都圏からのプロのうち、ヴァイオリン沼田園子さん、ヴィオラ東義直さんはそれぞれ、②の合間に、市内の別な場所で、「鎮魂ミニコンサート」　を無料で行います。特に、私が仲介している沼田さんのカトリック石巻教会での 25 日（日）ミサ後、午前 11 時からの演奏

会は、細部詰めの最中です。
なお、①の要請に対し、石巻市内のホテル・旅館は、既に満室状態であり、ネックとなったが、市内から 30 分程度の内陸部に、新たに予約できたことと、入場料 1000 円のチケットを 30 枚招待で頂いたので、「演奏会（③も含め）を聴きたい」観客についても呼びかけることとしました。皆様ご自身や、お友達、ご家族と、３月 24 日（土）25 日（日）の旅に来られませんか

なお、20 日（月）は、これまで近くを何度も通りながら、立ち寄れなかった、大川小学校に初めて伺いました。「川をせき止め、行方不明の職員・児童５名の捜索」中で、警察・消防や報道陣、などが点在していました。（ちょうど、今朝の朝日新聞朝刊に、写真入りで捜索期間延長記事が掲載されていました。）

３月１日（木）　都内で弦楽器練習

「永福和泉地域区民センター」にて、夜５時～9 時まで、以下弦楽器の練習を行いましたので、簡単にご報告しますとともに、参加者の皆様、充実の４時間、お疲れ様でした。

１　**参加者 13 名**—第１Ｖｎ２名、第２Ｖｎ５名、Ｖａ２名、Ｖｃ３名、Ｃｂ１名
２　**欠席者３名**—第１Ｖｎ１名、第２Ｖｎ１名、Va1 名
　午後５時～6 時　　簡単な自己紹介。「フォーレ」のＶｎのある曲を練習。
　午後６時～8 時 10 分　チャイコ５の通し練習。
　午後８時 15 分～50 分　　フォーレの通し練習

全体に、プロ沼田さんの指示、指摘、と、プロ東さんや２月 19 日現地練習に参加したＳさん、Ｋさんのフォローで、大変充実した練習が出来た。指揮不在、ではあったが、主に、沼田さんの口頭でのリズムのカウント、で全員が合わせる。また、第１Ｖｎ沼田さん一人、　にもかかわらず、抜きんでた音色での旋律と、的確なリズムで、全体を引っ張って頂き、引き締まり、隣で弾いていたＳさん、ひたすら感激。しかし、ところどころで、中断。チャイコで、いまだどのパートも確定されていないボーイングで、特にＶｎは、調整に次ぐ調整に追われる。

７時すぎ、仕事からＶｃを取りに自宅に戻り遅くなったＹ夫妻が参加。俄然立体的に。８時すぎ、チャイコで「忙しく、荒れぎみ」から、一転、フォーレの「ゆったりと、柔らか目の、ピュアな音色」への切り替え、には休憩も大事の声しきり。

フォーレは、合唱の伴奏、「天国の音楽」なので、控えめ、とはいえ、Ｖａの刻みの活躍や休符や全音符も多く、全体の頭を揃えるのが課題。ビブラートは、ゆっくり、かける。

午後９時すぎ　会場を日頃、練習で使用している、Ｋさん、Ｈさんの「行きつけ」の焼き鳥屋で、９人で乾杯。最後の新幹線、と、10 時に沼田さんが抜け、さらに１時間、話は尽きない。

３月２０日（火―休日）　和光市で合唱練習

午後４時半より、フォーレ「レクイエム」の練習を、和光市民合唱団のＴ代表のご自宅で、佐々木指揮者、ピアノ伴奏で午後７時まで、行いました。

１　**参加者７名**―ソプラノ５名、テナー１名、バス２名
　ピアノ伴奏１名（和光市民合唱団練習ピアノ担当）

２　**欠席者６名**―ソプラノ１名、テナー３名、バス２名

指揮者佐々木氏が１時間遅れたので、全曲通しで、自主練習。５時半から、佐々木氏の指揮で、最初から１曲づつ、全曲。具体的な指示が、曲ごとに。一方、既に経験ある参加者は、色々な疑問点を指揮者に確認。お互い、初対面の方々が多かったが、和気あいあい、冗談や笑いも飛び交い、充実した練習となった。ただ、実際の「調整」は、本番前の練習や、当日のゲネプロでオケと合わせてみて、行うとのことで、参加できなかった皆さんも、「安心」して、24 日練習にご参加下さい。では、いよいよ、24 日、よろしく。

3月２４日（土）ゲネプロ参加

早朝、車や新幹線・高速バスなどで、**午後１時**石巻駅集合。

石森章太郎記念館近くの被災した料亭で、ほとんど初対面同士の弦楽器・合唱参加者２１人（今回全部で「311 有志」として 35 名参加（弦楽器 16 名、合唱 13 名、観客 6 名）で昼食。

その後、石巻市内で最も被害の大きかった南浜地区や海岸線を通り、途中、公民館で、被災者 50 名を集めた、元新日本フィルのビオラトップの東さん（今回の参加者）の演奏会へ立ち寄り、本番会場である石巻専修大体育館へ。

午後４時から、４時間の練習、夕食も無し、ぶっ通し。ともかく寒かったです。そして、真っ暗な夜道を４０分。登米市津山の旅館「三浦屋」へ着いたのが

午後 9 時すぎ。新潟から、我々同様の支援で来た長岡市民交響楽団１１人と、首都圏の弦楽器宿泊組１３人の貸切旅館での交流会。お酒も料理も美味しく、

午後１２時半まで、盛り上がりました。

一方、石巻市内の石巻グランドホテルに泊まった合唱組は、男女は別行動。男性陣は、徘徊し、佐々木指揮者とバッタリ飲み屋さんでご一緒になったとか。

３月２５日（日）午前、石巻市内でヴァイオリン無伴奏ミニコンサート

以下の「石巻市民交響楽団演奏会」に首都圏から参加したプロ、沼田園子さん。小沢征爾の指揮でソロも弾いた水戸室内管弦楽団メンバー。カトリック石巻教会で、日曜ミサ終了後の４０分、バッハや日本民謡などを信者 50 人を前に演奏。バッハ無伴奏ソナタ１番から「からたちの花」「春の海」「中国の太鼓」、クライスラー「プレリュードとアレグロ」、そしてアンコール「ダニーボーイ」。さすが、日本のトッププロヴァイオリニスト。圧倒的なボリューム感と、メリハリある音色、超絶技法、の名演で、５０人の観客には、泣く方も何人か。でも、首都圏から参加した弦楽器奏者たちは、ゲネプロで、誰も聞けず。演奏後、神父や信者の方々との懇談で、一人

の少女が紹介された。「この子は、両親が津波で流され、一人ぽっち、になったのです。ずっと、喋らず、笑顔もありませんでした。でも、今日の演奏で、癒された顔をしています。」

同日午後、石巻市「東日本大震災犠牲者追悼特別演奏会」参加

午前９時大学集合。10 時から練習（ゲネプロ）開始。

午後２時。開演。会場は、パイプ椅子に 1000 人の観客が一杯。

以下、**河北新報　３月 26 日月曜日版**。ミヤギテレビのニュースなどで取り上げられました。

レクイエム、天国へ響け　石巻市民交響楽団追悼演奏会

犠牲者を追悼する「レクイエム」を披露する交響楽団のメンバーら

東日本大震災から１年に合わせ、宮城県石巻市民交響楽団は２５日、石巻市の石巻専修大体育館で、追悼特別演奏会を開いた。石巻地区の合唱団などと合同で、鎮魂歌「レクイエム」を披露し、犠牲者をしのんだ。

交響楽団と合唱団など計２６０人が、フォーレ作曲の「レクイエム」を３５分間にわたり、荘厳な音色と美しいハーモニーで天国に響かせた。来場した約１０００人から大きな拍手が送られ、最後に「ふるさと」を全員で合唱した。交響楽団は震災で、メンバーの自宅が津波で流されたほか、石巻市内の練習場所が避難所となり、秋の定期演奏会は中止となった。合唱の参加者にも指導者や親族を失った人もいるという。交響楽団の足立岳志団長（５１）＝大崎市鹿島台＝は「演奏会の実現には苦労が多かったが、亡くなった方々を追悼する気持ちが伝わればいい」と話した。

午後４時半、本番終了　その後、大学食堂「打ち上げ」参加。主に、合唱メンバー半分の 100 名です。（オケメンバーは、会場片付け）皆さん明るく振舞われていましたが、相当な痛手を経験したようでした。女川の女声コーラス 27 人中３人亡くなった、と数人で参加していた３箇所の仮設住宅の住民、で暮らす、60 歳前後の方々は、やはり、「達成感」より、「悲しみ」の表情。今足りないのは「お金」と「心のケア」、とのことでした。また、別な方々は、「震災後半年ほどはなんとか気丈にしていたものの、その後心が折れたように引き篭もってしまった人、就職が決まっていたのに４月からの新しい職場に結局一度も顔を出せなかった人、

震災２週間前の石巻での第９の演奏会とその打ち上げ時のビデオ映像が最後になってしまった何人かの　人々、そのＶＴＲは海水に浸かってしまったものの、カードは無事でその映像を遺族に届けたら泣かれてしまった話など二度と経験したくないよ。」と涙を滲ませながら語ってくれました。

午後７時。南三陸宿泊組（弦７人、合唱２人、観客６人）と、片付けで食堂での打ち上げには参加できなかったオケ団員らとの中華料理屋での「交流会」。

午後１１時。「南三陸ホテル観洋」着。風呂から上がって、１５人全員、一部屋に集まり、午前中の沼田さんの迫力満点のソロ演奏に、ご本人前に聞き入り、

午前２時半、就寝。完全に酒不足・寝不足。

でも、翌朝、私等「高齢者」の男性は、朝風呂。女性と若者は、爆睡。

２６日（月）　南三陸町・女川体感

午前８時半出発。南三陸の、２月下旬、やっとオープン出来た仮設コンテナ商店街で、魚やお菓子、お酒などを買い、「現地にお金を落とす」。

雄勝町でも、破壊された市役所で、ピースボートの若者 10 数人と、立ち話。

ドイツ人、フランス人、カナダ人などの若者もいて、頑張ってる！

午前１１時。女川では、オケ副団長木村さんと、前の晩以来の「再会」。開業歯科医師。自宅兼診療所、趣味で集めたフルート 30 本も全て流され、今は、歯科医師会の「仮設診療所」勤務。

午前１２時。その後女川で、評判の「あなご丼」名物が売り、のプレハブ仮設食堂で、全員満足。

石巻駅や仙台駅で無事解散、帰宅しました。

≪演奏会参加者の感想≫（抜粋）

★都内からの観客６人

Ａさん-最初のチャイコフスキー交響曲第 5 番の出だしは、オケもばらついていたが、第 2 楽章あたりから、ハモリ始め、最後の第 4 楽章では、メリハリのある、復興へと向かう足取りのような希望を感じ、選曲も良かった。

Ｂさんー何度もフォーレのレクイエムは聞いたが、このような感動は初めて

Ｃさんー合唱、オケ、そして観客が一体となっていた、これまでには無い雰囲気だった。

Ｄさんーレクイエムが終わった時、指揮者が泣きながら、祈りの姿勢で 1 分以上、固まっていたのを見て、合唱やソロ歌手までも涙していたのが見え、このような体験が出来て、一生忘れられない思い出となった。

Ｅさんーこれまでの演奏会での合唱より、音色が柔らかく、包み込まれる感じで、本当に祈りのようで、涙が出てきました。

Ｆさんー普段、演奏会などに行ったこともない私でしたが、本当に感動しました。

◎石巻オケ団長夫人

本当にお礼の申しようもありません。こんなにいい演奏会が出来たことは、皆様のおかげです。一期一会の素晴らしい皆様とご一緒出来たこと忘れません。（中略）また懲りずに石巻にもお出かけくださいね。

◎石巻オケ副団長

（前略）本当にありがとうございました。おかげさまでとても良い演奏会になったのではと思っております。何度もこちらに足を運んでいただいたり、お心遣いをいただき、団員一同心より感謝申し上げます。ご存知の通り、石巻地方は震災以前より人口の過疎化が進んでいたところで、今回の震災でさらに大打撃を受け、産業の復興にはかなりの時間を要するのは必至です。我々のオーケストラも慢性的な団員不足で、今後の運営はかなり厳しいものがありますが、一度活動を休止してしまうと、再起はもっと難しくなるので、今後も可能な限り活動を続けてゆきたいと思っております。夢は石巻に新しいホールが建設されてそのこけら落としで、我々が演奏することですが・・・いつになるでしょうね。今回斉藤様をはじめ、多くの方々のご協力を得、また励ましの言葉も頂き、勇気づけられました。今後も何かとお願いすることもあるかもしれませんので、その時にはどうぞ宜しくお願い致します。

●合唱メンバー

（前略）長い人生の中での初めての体験、こんなことがたくさんあっては困りますが、この演奏会をきっかけに知り合いになれました、多くの方々との貴重な共有できた時間は、中身の濃いものでした。あんなに寒さに弱い私でしたが、本番中は「さ・・」もありませんでした・・。帰りのバスの外は雪でしたね。まだ＜春＞が遠いようです。三陸にも一日でも早く＜春＞がきて、心を温めて欲しいと願います。（後略）

●合唱メンバー

（前略）得難い貴重な経験をさせていただきました。きょう、女声アンサンブルの練習がありましたので、早速皆さんに報告して、被災地への支援をお願いしました。昨年もチャリティコンサートを開いて義援金を送りましたが、来月またコンサートを開きますので、そこで募金をお願いする予定です。取り急ぎ御礼申し上げます。

●合唱メンバー

（前略）正直、最初はそれ程被災地に対しての認識は対岸の火事的な印象しか持っていなかったのですが、現地へ行ってそのイメージががらりと変わりました。特にありさかさんの話と佐々木先生の涙は胸にくるものがありました。今後も何かお手伝い出来ることがあれば、微力ながら手伝わせて頂きたいと思うので、お声かけください。ありがとうございました。

●合唱メンバー

本当に、本当にお疲れさまでした！！あのようなコンサートに出させて頂き、私の人生の中の大事な一日になりました。誠にありがとうございました。（中略）十分に感動を胸に帰ってきました。あの佐々木先生の終了した時の深い、長い祈りは石巻出身の想いが解って本当に胸に迫って来ました。合唱団も、かなりの人数がいらして、助っ人としてそれほど任務はないと思いましたが、行かせて頂きましたことに、意味がありますので、しっかり歌わせて頂きました。

会場のお客さまの中に家族、親戚、友人を亡くされた方がいらっしゃると思うと、急に涙が出て来ました。それでも、きちんと歌わないと・・・と思いました。（後略）

●合唱メンバー

合唱に関しては長いブランクがありましたが、皆さんのパワーと気持ちに乗っかって演奏に参加することができました。本番では感動で体の震えが止まらなくなったり、涙がこぼれそうになったりと、こんな体験は初めてのことでした（後略）

●合唱メンバー

（前略）石巻合唱団の方々と控え室でお話をさせて頂きましたが、その一部を紹介します。皆さん明るく振舞われていましたが、相当な痛手を経験したようですね。廻りには、震災後半年ほどはなんとか気丈にしていたものの、その後心が折れたように引き篭もってしまった人、就職が決まっていたのに４月からの新しい職場に結局一度も顔を出せなかった人、震災２週間前の第９の演奏会とその打ち上げ時のビデオ映像が最後になってしまった何人かの人々、そのＶＴＲは海水に浸かってしまったものの、カードは無事でその映像を遺族に届けたら泣かれてしまった話など二度と経験したくないよ、と涙を滲ませながら語ってくれました。演奏会で観客席の様子はあまり分かりませんでしたが、やはり印象深かったようですね。（中略）１１時過ぎに太田着。

昨日から平常勤務に戻っております。皆様と御一緒できたことに感謝しております。

●合唱メンバー

（前略９私は被災後、初めて石巻に行き，その現実を確認した不忠者です。（中略）合唱することもさることながら、被災された方々の生の声を聞くことが出来ただけでも、今回の遠征の目的は達せられたように思います。レクイエム演奏中、観客の方々は泣いてしまうであろう、と私は思っていましたが、皆さん、身じろぎもせず、じっと聞き入っている姿には感動致しました。そして、佐々木さんの指揮に、涙をこらえることが出来ず、合唱にならない声を張り上げていた自分が情けなく思い、逆に観客の方々から激励され、勇気を与えられたように感じました。（後略）

●合唱メンバー

（前略）それにしても大川小学校が海抜１メートルのところに立地していたことには驚かされました。現地に行って、初めてわかりました。河口から４キロのところで、ハザードマップ上は避難場所になっていたようですが、そもそも河に近い低い土地に建設を決めたことが間違いでしたね。子供たちは住民の皆さんは本当に気の毒です。（後略）

●合唱メンバー

（前略）今後もこのような支援のコンサートがありましたら、参加させて頂きたいと、心から思いました。「一日もみなさんのことを忘れていません」と言いたかったのですが、「たいへんでしたね～」と云うのが精一杯でした。それでも、逆に「わざわざ東京から来て貰って、本当にありがとうございます」と何人もの方から言われました。その優しい気持ちに私の方が感動しました。

●合唱メンバー

（前略）蟻坂さんがリハの帰り車で送ってくださる車中で震災当時、仙台にいたところを石巻に５時間かけて戻ってきて現地の惨状を目にして、「「俺は絶対生き抜いてやる」と思った」と話してくれたことがとても印象深く残っています。悲惨な目に合いながらも生きていく人の力強さを見た思いがします。あの言葉に日常に追われ、日々疲れが抜けない生活を送る私は随分励まされました。励ましに行って、励まされて帰ってきてはしょうがないのですけど・・・今後も歌だけでなく何か力になれることがあれば喜んで参加しますのでお声掛けください。（後略）

◎弦楽器メンバー

（前略）首都圏組の男性達は皆様パワフルで驚きました。さすがです。私など本当に甘ちゃんなので、もう風邪をひいてしまって情けないです。東北の方は強いですね。あの寒さの中であの住環境で。尊敬してしまいます。（中略）今回貴重な経験をさせていただいて感謝しています。ありがとうございました。そしてお疲れさまでした！

◎弦楽器メンバー

おかげさまで、石巻の人たちや音楽ボランティアの人たちとつながって、すごく貴重な２日間でした。日和山の上から見えたもの、巨大がれきピラミッド、仮設住宅の列、廃車の山。（中略）伊達政宗の施策で流れを変えられた北上川、支倉常長のサン・ファン・バウティスタ号のこと、志賀直哉生誕の地(大津教授生誕の地はその前)、など、歴史についても知りました。原発の女川町、自衛隊航空基地の東松島市が隣接する石巻の政治的環境もわかりました。フォーレでお隣だった魚屋の奥さんの活力にも感動。再会を約束しました。しかし本番となるとなんとかまとまってしまう、このアマチュアオケの恐ろしさをまたもや見てしまいました。マジで、石巻交響楽団の団友にさせてもらいたいと。プロの演奏家たちも皆さん素晴らしかったですわ～。（後略）

◎弦楽器メンバー

（前略）２度と味わえない心に響く音楽の体験と感動をありがとうございました。一人運転で睡眠不足の中ご苦労様でした。私は（中略）１時２０分の帰還、でもお互い無事が何よりでした。今日は午前中習字で雄勝町の復興支援タオルを２０人に配り、今まで支援物資を出してもらったお礼としました。しかし、意外と硯の名産地ということ皆知りませんので、全国の硯の７０％生産の町で、ほぼ全滅した雄勝町の硯をかなり瓦礫の中から拾い出して磨きをかけ販売している話をしました。今後も支援よろしくと次回につなげました。会員の１人がこっそり支援金１万円渡されましたので次回お渡しします。

◎弦楽器メンバー

帰りは夜中になってしまったのですね＝本当にお疲れ様でした。すばらしいマネージメントで滞りなく珍道中？！にご一緒できた事にとても感謝しています＝１年経ったからこそできた鎮魂と被災地の方々との触れ合いは、私の音楽人生の中でも忘れられない特別な一幕となりました。まだまだ続く困難な復興の一歩一歩を見守ってゆきたいと強く思っています。（後略）

◎弦楽器メンバー

（前略）今まで面識のなかった僕のような者を受け入れて頂き、感謝しています。また、今回の訪問を機に石巻の皆さんとの新たな気持ちの繋がりも 出来ました。（中略）石巻市民オケの中で弾かせて頂き、拙さは否めないものの、団員の 方々の音楽や聴衆に対する情熱を伝えるべくお手伝いを出来たのは 大きな収穫でした。罹災した公民館での演奏も、どのような心理状態で弾くことになるのかを懸念していましたが、お越しいただいた皆さんのまなざしを 見て、ただただ懸命に弾こうと無心に弾くことが出来ました。「ボランティアは人のためならず、我のためなり。」言葉ではわかっていましたが、実践でき、とてもよい経験でした。（後略）

◎弦楽器アシストメンバー

ふた息つきました。楽しい機会を頂戴し感謝です。また、たくさんのご縁を頂戴しました。
ありがとうございました。（後略）

◎弦楽器（不参加）メンバー

メール有難うございます。写真も付けてくださって、様子が良くわかりましたよ。それぞれのコンサートのお客様の、写真に写っている後姿からでも、音楽に聴き入っている様子、感動している様子がわかりました。しかも、このツアーは本当に大変だったと思う。被災地の特殊事情と演奏、交流会までお疲れ様でした。参加した皆様から感謝されていることでしょう。 石巻の演奏会プログラムに堤さんの写真、というのを読んで私も涙。（後略）

６月２４日（日）　気仙沼での石巻市民オケ「ファミリーコンサート」参加

上記石巻市民交響楽団が、地域貢献、被災者支援で、家族向けポピュラー音楽中心のチャリティ演奏会。しかし、弦楽器不足。午前０時半、我が家出発、気仙沼本吉地区の会場には８時着。「３１１　有志」からは３名参加。１０時から初の練習、
午後２時本番。４５０席に４１５人、とほぼ満席。いつもより、親子連れ、しかも幼児も目立つ。「ディズニー」「サンダーバード」などに続き、「アンパンマン」「トトロ」「川の流れにように」で、観客も歌詞カードを見ながらの大合唱。指揮にトライ、には小学３年、６年生の「迷指揮」で、大爆笑。休憩時間には、「楽器に触ってみよう」。私、初めて、１歳３ヶ月、２歳８ヶ月、から小学校６年生までの幼児・児童 10 人余りとチェ

ロ指導？人見知りしながら、真顔で、おずおずと、弓を握り、ギコギコ。驚くことに、終わると、皆、笑顔になり、「面白かった！」。